

日本音楽知覚認知学会 平成 28 年（2016 年）第 2 回理事会 議事録

日時：平成 28 年（2016 年）10 月 29 日（日曜）午前 10 時～12 時 30 分

場所：筑波大学 総合研究棟 B108

参加者（敬称略）：中島、山崎、安井、吉野、西村、羽藤、亀川、三雲、生駒、菅、星野、桑野、荒川、三浦

議題

1. 次期体制、次期選挙について：中島祥好（会長）

2017～18 年度の体制について、中島祥好会長が次期会長として立候補する旨が確認された。また、それ以外に立候補、推薦のないことが確認された。その後、上記立候補に伴う来年度の理事会体制案について説明がなされた。特に新副会長として谷口高士常任理事、理事会顧問として大串健吾理事、監事として星野悦子常任理事をお願いする旨が確認された。また、幹事に正田悠会員、森数馬会員をお願いする方針が提案され、確認された。また、選挙管理委員会の委員長として亀川徹理事をお願いすることが提案され、了承された。

また、アーカイブ担当として引き続き桑野園子理事より具体的な更新作業を担当する理事がホームページ・ウェブ担当の安井希子理事であることが確認された。さらに、作業担当のアルバイト雇用に関して、現担当の安井希子理事の勤務校には大学院生の学生が在籍しないことより、専攻生を雇用可能にすること、また、月 8000 円程度のアルバイト代を今年度支出する旨が確認された。

2. 編集委員会体制について：中島祥好（会長）、星野悦子常任理事（学会誌編集委員長）

現編集委員長の星野常任理事より、2017 年度については星野悦子常任理事が担当し、その後 2018 年度から西村明理事に交代する方針であることが報告され、了承された。

3. 学会誌への投稿の電子化について：星野悦子常任理事（学会誌編集委員長）

投稿システム「EasyChair」について西村明理事より説明された。J-STAGE にも類似システムが存在するため、比較検討し、その結果を次回の理事会で報告することが確認された。そのために、J-STAGE の検証に必要な契約を必要に応じて進めることについても承認された。また、投稿フォーマットについて、従来のダブルスペースだけではなく、刷り上がり形式の投稿の可能性についても議論した。

4. 第 6 回 APSCOM 大会について：荒川恵子常任理事（APSCOM2017 組織委員長）

実行予定について確認された。特に、銀行口座の変更、海外顧問、基調講演、演奏会、懇親会、会場、おみやげ、広報、ウェブ申請、助成金申請について報告された。学生アルバイト代の支出予定について、基本的にはボランティアベースであるが、事情の許すかぎりアルバイト代を出すことにすることとなった。科研への申請書の内容について広く意見を求めた。

5. 第 15 回 ICMPC 大会について：山崎晃男副会長（国際渉外担当/APSCOM 副会長）

2018.7.23-28 Graz, Austria にて開催されることが報告された。開催主催者の Richard Parncutt 氏より、飛行機を使わない方針が示されたが、ICMPC 執行委員会からの異議と APSCOM、SMPC としての反対の意が表明されたことが報告された。

6. 国際活動支援基金の現状および有効活用について：吉野巖常任理事（総務担当）

2016年春の状況と変わらないことが報告された。現在、当該基金有効活動ワーキングを立ち上げ、2032年に我が国にて開催されるであろう ICMPC に 100 万は残すものの、約 170 万円は使い切るのがよいという方針について報告された。特に ICMPC や APSCOM ウェブサイトの運営に使う方針について今後検討することが提案された。

7. 音楽知覚認知学会 30 周年記念出版について：星野悦子常任理事

2016年春の時から進捗については、現在進行中であることが報告された。

8. 次年度春季・秋季研究発表会について：山崎晃男副会長（谷口高士常任理事代理、研究発表会担当）

2017年6月3-4日、日本大学江古田キャンパスにて開催されることが報告された。

9. その他一本発表会でのポスター選奨について

ポスター選奨の授賞対象者について、口頭発表者は 35 歳以下、ポスター発表については年齢要件なしであることが確認された。最終的な責任者は会長とすることと、今後の選考体制の整備について荒川常任理事を中心に検討することが確認された。また、授賞者数についても議論し、今回は原則 1 名とすることを確認した。投票結果として、「正会員」と「学生」とすることとし、スコア比は 2 : 1 とすることとした。授賞結果についてはホームページに掲載する旨が報告された。

10. その他—30周年記念ハンドブックについて

国際活動振興基金での支出ではなく、印刷費の余剰金で支出する方向で検討を続けることを報告した。特に吉野巖常任理事と星野悦子常任理事の間で調整することが確認された。

報告

1. 平成 28 年度春季研究発表会 研究選奨授賞者について：荒川恵子常任理事（学会賞担当）

1 件の授賞が報告された。対象者は小幡哲史氏（電気通信大学）、対象発表は「ヴァイオリン演奏における左手指の押弦力と筋活動」であることが報告された。また同発表会におけるポスター発表選奨については、対象者は勝呂明央氏（龍谷大学）、対象発表は「ハイレゾ音源の量子化精度による聴取可能性～Waterman 法による検討～」であることが報告された。

2. 「音楽知覚認知研究」の発刊と今後の予定について：星野悦子常任理事（学会誌編集委員長）

今年 10 月に 22 巻 1 号（刊行済み）、来年 3 月に 22 巻 2 号を発刊予定であることが報告された。また、原著論文が 3 本査読中、寄書 1 件査読中などが進行中である。また、新企画として「わたしの研究」というエッセイが企画中であることが報告された。

原著論文の PDF 化について、未変換分について 24 本あり、7 名の編集委員によって著作権の確認を行なう予定である。その後、著者への掲載許諾を依頼する予定であることが報告された。